

## EUSI メールマガジン Vol. 062

### 「EU への関心ー若者(高校生)の意識と感性ー」(藤川哲史)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【EUSI Commentary Vol. 045】

#### 「EU への関心ー若者(高校生)の意識と感性ー」

藤川哲史 (EUSI 事務局長・一橋大学)

#### はじめに

日本の若者、特に高校生たちはEUについてどのように理解しているのだろうか。そもそもEUのことをどれくらい知っているのだろうか。

筆者は、2014年、訪問授業という形で、現役の高校生と2回ほど接する機会を持つことができた。彼らに聞いてみると、EUという言葉は当然知っているものの、それ以上は個人差が大きく、「教科書に太字で書いてあった。」と言うレベルの者も少なくない。

そもそも彼らの国際問題への関心の程度にばらつきが大きく、また、国際問題に関心を持っている場合でも、やはり米国、中国、韓国といった国々に目がいつてしまい、なかなか欧州にまで対象を広げるに至っていない。仮に英国、フランス、ドイツ、イタリアなどの特定国、あるいはスポーツ、ファッション、観光といった特定のジャンルについての関心を持っていても、戦後の欧州統合の歩みや実態について考えるところまではとても手が回らないというのが実情であろう。

#### EUSIによる高校訪問のスキーム

EUSIでは、これまで麻布高校を皮切りに、東京都内及び近郊の高校へ出向いて訪問授業を行ってきた。事前に授業のテーマを知らせ、予習のための時間をとっていたこともあり、一定の理解の上に立った質疑応答なり議論を行うことができた。

高校訪問授業の通常の方式としては、EU代表部とEUSIが1名ずつ人を出し、この2人が組んで授業を行うという形をとっている(EUSIが単独で高校を訪問し、授業をやった例もある)。

最初に、EU代表部から、EUに関する総論として、その人口、面積、GDP等の一般情報を提供し、その沿革と発展の歩みを深化と拡大の観点から説明するとともに、日・EU経済関係等についても言及している。必要があれば、EUSI側から、より噛み砕いたかたちでの分かりやすい補足説明を行う場合もある。

次に、EUSIからは、高校生たちの知的関心を刺激するとともに、欧州統合のあり方を通じて今後の日・EU関係や日本の進路などについて考えをめぐらすことのできるような特定のテーマについて解説し、質疑応答につなげている。2014年の秋に東京都立国立高校において行った授業においてもほぼ同様の方式

を採用し、テーマとしては「EU の意思決定過程」を取り上げたところ、予想を上回る 60 名近い高校生と教員が参加し、熱心に聴講するとともに予定時間を越えて活発な質疑応答が行われるなど、熱気あふれる訪問授業となった。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol45.pdf>

## 【EUSI イベントご案内】

### 1. EUSI 国際シンポジウム

「Recurring Euro-zone Crisis and Resilience of Europe: New Perspectives of the EU Studies」

日時: 2015 年 3 月 9 日(月) 9:00-18:10

場所: 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス 津田ホール

<http://tsudahall.com/THHP/annai.html>

09:00-10:00 開会挨拶・基調講演

10:30-12:05 Session 1 "Euro-zone Crisis Today"

13:30-15:05 Session 2 "Variety of Economies and Its Resilience"

15:10-18:10 Session 3 "Cohesion in Social Dimension"

### 2. 外務省欧州局政策課より以下のご案内が届いています

日 EU 共同シンポジウムのお知らせ (2015 年度前期議長国ラトビア・リガ開催)

平成 14 年以降、我が国は EU と連携して、市民社会の連携、文化交流及び人的交流を進展させることを目的としてシンポジウムを開催しています。

本年度は、日本外務省、ラトビア外務省との共催及び欧州対外活動庁(EEAS)の後援の下、2 月 6 日(金)、ラトビア・リガ市において、日 EU 共同シンポジウムを開催する予定です。

同シンポジウムでは、日 EU 協力をメインテーマとし、1. 日 EU 関係、2. EU 東方パートナーシップと中央アジアとの協力、及び 3. 東アジアの安全保障情勢について議論が行われることとなっております。

また、片上慶一欧州連合日本政府代表部特命全権大使をはじめ、ラトビア外務省及び EEAS の高官が参加予定です。

日 EU 共同シンポジウム

「EU-Japan Cooperation: Common Challenges and Perspectives」

日時: 2015 年 2 月 6 日(金) 8:45-14:00

会場: ラトビア外務省 (Kr.Valdemara iela 3, Riga LV-1395, Latvia)

Sessions:

1. "EU-Japan Relations"

2. "EU Eastern Partnership and Cooperation with Central Asian Countries"

3. "The Security Situation in East Asia"

ご関心のある方は、下記にご案内がございますので、ご一読ください。

在ラトビア日本大使館 HP (日本語)

<http://www.lv.emb-japan.go.jp/japanese/temp/symposium.html>

2015 年前期 EU 議長国公式 HP (英語)

[https://eu2015.lv/images/Kalendars/Concept\\_Paper\\_EU-Japan\\_symposium\\_6\\_Feb\\_2015.pdf](https://eu2015.lv/images/Kalendars/Concept_Paper_EU-Japan_symposium_6_Feb_2015.pdf)

### 【EU に関するニュース】

- 2015 年 1 月 1 日 リトアニア、ユーロ導入開始。19 カ国目のユーロ圏加盟国に
- 2015 年 1 月 1 日 ラトビア、2015 年前期議長国就任。2004 年 EU 加盟後初の議長国就任
- 2015 年 1 月 1 日 単一銀行破綻処理メカニズム(SRM)の規則施行開始。来年 1 月の SRM 正式運用に向け始動
- 2015 年 1 月 2 日 ドラギ ECB 総裁、デフレリスクに言及、必要な場合今年初めに行動の用意と独紙に談話
- 2015 年 1 月 2 日 フックス独議会院内副総務、ECB の国債購入案に反対、改革路線の必要性強調
- 2015 年 1 月 4 日 キャメロン英首相、EU 残留をめぐる英国民投票(2017 年までに実施)の前倒し意向に言及
- 2015 年 1 月 5 日 米研究機関 Eurasia Group、2015 年の 10 大リスク発表。1 位は「ヨーロッパの政治」
- 2015 年 1 月 6 日 ドラギ ECB 総裁、フラナガン欧州議員への書簡内で ECB の措置に国債購入含む可能性示唆
- 2015 年 1 月 6 日 モゲリーニ上級代表、イスラエルのパレスチナへの徴税送金停止はパリ協定違反と声明
- 2015 年 1 月 7 日 欧州委員会、EU・米 FTA(交渉中)である環大西洋貿易投資協定(TTIP)の EU 側条文案公開
- 2015 年 1 月 7 日 仏シヤルリー・エブド紙テロ襲撃事件。トゥスク欧州理事会常任議長、非難声明
- 2015 年 1 月 7 日 シェフチョビッチ欧州副委員長、毎日新聞との会見で EU のエネルギー同盟実現を強調
- 2015 年 1 月 7 日 モスコビシ欧州委員、仏ル・モンド紙にギリシャのユーロ圏離脱や返済猶予検討を否定
- 2015 年 1 月 7 日 Eurostat、昨年 11 月失業率(季節調整済)はユーロ圏 18 カ国で 11.5%で前月同
- 2015 年 1 月 7 日 Eurostat、昨年 12 月消費者物価指数(速報値)はユーロ圏 18 カ国で前年同月比-0.2%
- 2015 年 1 月 8 日 欧州委員会、ウクライナへの最大 18 億ユーロの追加マクロ財政支援(MFA)を提案
- 2015 年 1 月 8 日 ハンゾン ECB 政策委員(エストニア中銀総裁)、ECB の国債購入は性急と否定的見解表明
- 2015 年 1 月 8 日 欧州委員会、昨年 12 月景況感指数はユーロ圏 18 カ国で 100.7 と前月同、EU28 カ国は 104.2
- 2015 年 1 月 8 日 Eurostat、昨年 11 月小売売上高はユーロ圏 18 カ国で前月比+0.6%、EU28 カ国は同+0.8%
- 2015 年 1 月 10 日 ラウテンシュレーガー ECB 専務理事、独誌で ECB の国債購入に否定的見解表明
- 2015 年 1 月 11 日 オランダ仏大統領、EU・欧米首脳らと会談、テロとの戦い結束確認、反テロ行進実施
- 2015 年 1 月 11 日 テロ対策緊急閣僚級国際会議、不法武器移転・テロ情報共有・国境管理等の共同声明
- 2015 年 1 月 11 日 ビスコ伊中銀総裁、独誌に ECB の国債購入策はユーロ圏デフレ回避のために必要と強調
- 2015 年 1 月 12 日 ミツァ国際協力・開発担当欧州委員、EU 市民の開発援助支持拡大の世論調査を報告
- 2015 年 1 月 12 日 ECB、先週のカバード債購入額は 16.59 億ユーロ、資産担保証券購入額は 4800 万ユーロ
- 2015 年 1 月 12 日 聯合ニュース、昨年韓国対 EU 貿易は 106 億ドル赤字見込。2011 年 FTA 発効翌年以降赤字
- 2015 年 1 月 13 日 欧州委員会、欧州戦略投資基金(EFSI)の法案策定。3150 億ユーロ規模の投資計画
- 2015 年 1 月 13 日 欧州刑事警察機構(Europol)、EU 域内からイスラーム国への渡航者は最大 5000 名と推計
- 2015 年 1 月 13 日 ノワイエ仏中銀総裁、独誌に ECB の国債購入含めた量的緩和は上限設定必要と見解表明
- 2015 年 1 月 14 日 モゲリーニ上級代表、欧州ユダヤ人会議代表団と会談。反ユダヤ人排斥に向け取組み
- 2015 年 1 月 14 日 欧州司法裁判所、ECB の無制限債権購入策(OMT)は条件満たせば適法との法務官意見
- 2015 年 1 月 14 日 欧州司法裁判所の法務官意見に対し、メルシュ ECB 専務理事や独財務省、歓迎意向表明
- 2015 年 1 月 14 日 Eurostat、昨年 11 月季節調整済鉱工業生産はユーロ圏 18 国・EU28 国共に前月比+0.2%
- 2015 年 1 月 15 日 モゲリーニ上級代表、インドネシアで 6 名の死刑執行予定発表に対し停止要求の声明
- 2015 年 1 月 15 日 ノボトニー中銀総裁、ギリシャのユーロ圏離脱は非常に危険な展開と強い懸念示唆
- 2015 年 1 月 15 日 バイトマン独連銀総裁、欧州司法裁判所意見を受け、ECB の量的緩和に反対意向再強調
- 2015 年 1 月 15 日 Eurostat、昨年 11 月貿易収支はユーロ圏 18 国で 200 億、EU28 国で 101 億ユーロと共に黒字

### 【編集後記】

現在、朝日新聞の朝刊に夏目漱石の「三四郎」が当時と同じような形で連載

されています。この小説は「それから」、「門」と続くいわゆる三部作の第一作目にあたり、いまだに人気の高い青春小説の一つです。熊本の高校を卒業した主人公が東京の大学に入学するために上京してくるところから始まり、彼が東京で時代の新しい空気に触れ、多くの先輩や友人たちから様々な刺激を受ける様子が描かれています。その背景にあるのは、富国強兵の方針のもとで発展を遂げた明治後期の日本の危うい姿であり、主人公の先輩知識人の言葉を借りて、漱石自身の文明への深い洞察が伝わってきます。そして主人公自身も(「それから」の主人公はなお一層にですが) しいに社会を見る目を養い、自分の生き方を深く考えるように成長を遂げていくことになります。若者たちの成長は早く、その発想はとても新鮮なものがあります。例えば、仏独共通歴史教科書を作成するという斬新なアイデアは、両国の若者(高校生)による青少年議会の場において生まれました。もちろん、それを具体化するためには、多くの大人たちが、両国政府や国際機関において、粘り強い努力を続けたことを忘れてはなりません。長年にわたる仏独の紛争の地であり、戦後は和解の地となったアルザスの州都ストラスブールにある欧州評議会においては、青少年のためのイベントが数多く実施されています。欧州諸国との共通点を数多く持つ日本の未来を担う若者に対して、これからも様々な働きかけを行っていかねばならないと考えています。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

今年には第二次世界大戦終戦 70 周年ということで歴史を考える上で極めて重要な年を迎えています。そのような中で、明日 1 月 27 日はアウシュヴィッツ収容所解放 70 周年という、人類史上忘れることのできない記念すべき日に当たります。1945 年 1 月 27 日、ソ連軍はドイツ占領下のポーランド南部のアウシュヴィッツ＝ビルケナウに迫り、強制収容所に残っていた約 7500 名もの収容者を解放するとともに、その凄惨な現場を目の当たりにしました。自ら収容所での生活という極限体験を基に『夜と霧』を著したヴィクトル・フランクルは、生きることの意味を、生きることが我々自身に何を問うているのかを知ることだ、と述べています。

アウシュヴィッツが我々に遺したものは、ナチスという独特の政体や集団によって引き起こされた一過性の問題ではありません。第二次世界大戦を語る上で、ヒトラーやナチスという"悪"の存在を設定し、あくまで彼らがやったことだという問題の切り捨て方に対して、ホロコーストを起こしたのはナチスやヒトラーではなく、むしろ普通のドイツの人々が自らの意思で荷担したため起こったのだと唱えたのは、政治学者のダニエル・ゴールドハーケンでした。彼の議論はドイツ国内で「ゴールドハーケン論争」という議論を巻き起こしましたが、そこに問われているのは、我々自身は決して歴史上の起こってきた出来事に対して完全に関与を免れるものではなく、むしろそれらの積み重ねの上に立っていることではないでしょうか。戦後 70 年の今年、私たちは改めて歴史と向き合わねばならないものと思います。

Auschwitz - The 70th Anniversary of the Liberation

<http://70.auschwitz.org/>

V・E・フランクル『夜と霧』(みすず書房、初版 1985 年・新訳 2002 年)

<http://www.msiz.co.jp/book/detail/00601.html>

D・ゴールドハーケン『普通のドイツ人とホロコースト』(ミネルヴァ書房、2007 年)

<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49505.html>

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo  
〒186-8601 東京都国立市中 2-1  
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局  
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら  
E-mail: info@eusi.jp

---